集めてみました世界の

みんぱくが所蔵している世界のポットを集めてみました。
コーヒーやお茶をいれる道具も、地域ごとに形や模様が
少しずつ違っているのがわかります。

ティーポット
アイルランド
三つの足と貝がらのような模様が特徴の小さなポット。1918-38 年ごろ、当時のチェコスロバキアで作られ輸出された大量生産品のひとつと思われる。
H 8.8 x W 14 x D 17
H0121529

コーヒーポット
フランス
上部にろ過器のついたコーヒーポット。18 世紀なかばにいたるまではこまかくひいたコーヒー豆を煮出してそのまま飲んでいた。ろ過してかすをとりのぞく方法を発明したのはフランス人であるといわれる。
H 25 x W 12 x D 21
H0003434

ティーポット
アフガニスタン
釘とハンマーで細かな文様がほどこされた金属細工のポット。
H 12 x W 13 x D 19
H0000795

茶入れ容器
モンゴル
モンゴルの人びとは、牛乳と緑茶とを煮込んだスーテ・ツァイとよばれる熱い茶を好む。
H 31 x W 12
H0063909

コーヒーポット
トルコ
ひしゃく型のポットにコーヒーの粉と砂糖と水を入れて煮立てる。粉はフィルターせずにカップに注ぐ。カップの底に残ったコーヒーの粉で、コーヒー占いをすることもある。
H 16 x W 22 x D 7.7
H0001946

サモワールとティーポット
トルコ
炭を入れて湯を沸かし、蛇口からティーポットに湯を注ぐ。ポットをサモワールの最上部にのせて、お茶を保温しておくことができる。スラブ諸国、イラン、トルコで日常的に使われているが、現在は電熱式が主流である。
H 75 x W 48 x D 51
H 29 x W 23 x D 38
H0001893、H0001894

ポット
メキシコ
にぎやかな模様と彩色が特徴のタラベラ焼きのポット。コーヒーや紅茶用のふだんづかいのもの。
H 22 x W 20 x D 26
H0156212

ミントティー用ポット
モロッコ
茶葉に加え、生のミントと砂糖を入れ、高いところからグラスに注ぐのが特徴。ふたの取っ手がミントの葉の形になっている。
H 22 x W 15 x D26
H0179991

コーヒーポット（置き台付き）
エチオピア
家庭で使用されている伝統的なコーヒーポット。豆をいり、臼でつき、土器で煮出して小さな茶わんにいれて飲む。
H 24 x W 14 x D 18
H0007158、H0007159

コーヒーポット
サウジアラビア
注ぎ口は開閉可能で、ナツメヤシの繊維を入れ、フィルターにする。
H 49 x W 24 x D 41
H0100202

ポット
インドネシア
スマトラ島に住むミナンカバウの人びとのあいだで使われていたポット。竹製の筒に木の取っ手が付いている。
H 30 x W 10 x D 20
H0166221

茶器
中国
ムスリム（イスラーム教徒）である回族のもの。側面に文様化されたアラビア文字でコーランの言葉が書かれている。
H 10 x W 11 x D 14
H0268132